



2020年12月期 決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月12日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理室長 (氏名) 佐伯賢二 TEL 0968-66-2111
 定時株主総会開催予定日 2021年3月30日 有価証券報告書提出予定日 2021年3月30日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期の連結業績(2020年1月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	4,616	44.8	461		348		633	
2019年12月期	8,359	7.0	684	21.2	691	26.2	386	28.3

(注) 包括利益 2020年12月期 652百万円 (%) 2019年12月期 404百万円 (75.4%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年12月期	61.29		5.8	1.6	10.0
2019年12月期	37.43		3.5	3.2	8.2

(参考) 持分法投資損益 2020年12月期 百万円 2019年12月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	21,195	10,554	49.8	1,021.00
2019年12月期	21,313	11,279	52.9	1,091.16

(参考) 自己資本 2020年12月期 10,554百万円 2019年12月期 11,279百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年12月期	624	191	941	476
2019年12月期	1,109	321	757	350

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年12月期		7.00		7.00	14.00	144	37.4	1.3
2020年12月期		0.00		0.00	0.00			
2021年12月期(予想)								

(注) 2021年12月期の業績予想を未定とすることから、配当予想額につきましても未定とします。

3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

2021年12月期の業績予想につきましては、2021年1月に政府及び自治体から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛要請がある中、消費者マインドと行動の変化を含めて、現時点では適正かつ合理的な算定が困難であるため、未定としております。

今後の動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期	10,346,683 株	2019年12月期	10,346,683 株
期末自己株式数	2020年12月期	9,260 株	2019年12月期	9,260 株
期中平均株式数	2020年12月期	10,337,423 株	2019年12月期	10,337,423 株

(参考)個別業績の概要

2020年12月期の個別業績(2020年1月1日～2020年12月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	2,949	44.3	111		63		127	
2019年12月期	5,298	8.9	504	22.3	527	20.8	350	21.2

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期	12.35	
2019年12月期	33.87	

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	18,729	11,698	62.5	1,131.70
2019年12月期	18,992	11,918	62.8	1,152.92

(参考) 自己資本 2020年12月期 11,698百万円 2019年12月期 11,918百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、(添付資料)5ページ「(1)経営成績に関する分析 (2)次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	6
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	7
2. 企業集団の状況	8
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	10
4. 連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(表示方法の変更)	18
(追加情報)	18
(連結損益計算書関係)	18
(セグメント情報)	19
(1株当たり情報)	21
(重要な後発事象)	21
5. その他	21

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、年初となる1月より始まった国内の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う4月の緊急事態宣言発令により、当社グループ各施設も、ゴールデンウィーク期間を中心に臨時休業を余儀なくされるなど多大な影響を受けたほか、7月の集中豪雨、9月の大型台風接近などの自然災害発生が続き、レジャー事業にとっては非常に厳しい経営環境となり、九州の遊園地をはじめとする当社グループ各施設の利用者数は大きく減少いたしました。

以上により、当連結会計年度の業績につきましては、売上高4,616,869千円（前期比3,742,775千円減）、営業損失461,933千円（前年同期は684,457千円の利益）、経常損失348,149千円（前年同期は691,557千円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失は633,537千円（前年同期は386,972千円の利益）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	4,616,869	8,359,645	△3,742,775	△44.8
営業利益	△461,933	684,457	△1,146,391	—
経常利益	△348,149	691,557	△1,039,706	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△633,537	386,972	△1,020,510	—

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、まず1月に、冬季のイルミネーションイベントとして、「ワンダーイルミネーション」を開催したほか、3月には、「夜桜ワンダーイルミネーション」と題して、正面メインゲート付近の桜並木をピンク色の照明で鮮やかにライトアップいたしました。

春には、幅広いターゲット層の獲得に向け、話題性の高いテーマを取りそろえて3大イベントを開催いたしました。

まず一つは、長年にわたり高い人気を誇る「クレヨンしんちゃん」の最新作映画をテーマとした「クレヨンしんちゃんワールド ラクガキングダムとワクワク！グリーンランドだぞ！」を開催いたしました。子ども心をかき立てるラクガキコーナーや様々な遊びの仕掛けをご用意し、ワクワクと楽しめるイベントは、ファミリー層を中心に好評を博し、夏にも特別開催いたしました。

また、令和最初の仮面ライダーを主役とした「仮面ライダーゼロワン バトルステージ」を開催し、日本最大級の全長70メートルの屋外ステージ「グリーンスタジアム」を舞台に、230インチの巨大LEDスクリーンによる映像演出や特殊効果を織り交ぜ、大迫力のアクションショーを繰り広げました。

さらに、お笑い芸人「クロちゃん」による初の展覧会イベントとなる「クロちゃんのモンスターパーク in グリーンランド」を開催し、クロちゃん本人によるオリジナルアイドルソングが聴けたり、クロちゃんと密室で2人きりになってしまうVR鑑賞も体験出来たりと、クロちゃんの魅力満載のイベントとなりました。

夏におきましては、春先に外出を自粛されたお客様の来園促進を図り、最新の「仮面ライダー」シリーズや「プリキュア」シリーズなど、子どもたちに人気の高いキャラクターショーを開催したほか、お盆期間のサマーナイト打上花火ショーや「タマホームプレゼンツ 疫病退散祈念花火～千の花火に願いを込めて～」を実施いたしました。

秋には、様々なキャラクターショーのほか、恒例の「タマホームスペシャル花火物語2020」を開催し、30分間で5,000発の打上げ花火で、盛大に夜空を彩りました。

そのほか、新型コロナウイルス感染防止対策下における『グリーンランドの新・絶叫スタイル』を提唱して、マスクに貼る絶叫の口の形をした「絶叫マスクシール」をご来園者全員に配布し、マスク着用のままアトラクションを楽しんでいただく取り組みを行い、大変好評を博しました。

また、その第2弾といたしまして、『デコRIDE！ラリー』と題して、それぞれ趣向を凝らしたマスクシールを対象アトラクション乗車時に配布し、マスクシールでデコレーションしたお客様のマスク姿の写真をSNSに投稿していただき、抽選で賞品をプレゼントするイベントを展開いたしました。

アトラクションにおきましては、宇宙をテーマに、不思議で幻想的な体験が出来る日本初登場のアトラクション「コズミックメイズ」をオープンいたしました。

そのほか、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、入園券の自動販売機の新規設置や電子チケットの販売を行うことで、ご来園時における混雑緩和に取り組み、また、午後から料金割引となる「アフタヌーンパス」の販売により、お客様の来園分散化を図りました。

このように様々な取り組みを行い、秋以降には、個人客ならびに修学旅行等の団体客のご利用回復の兆しが見られたものの、ゴールデンウィークを中心とする春の行楽シーズンに臨時休園したことに加え、夏休み期間に帰省自粛が見られたほか、プール営業ならびにカウントダウンイベントなどの一部の集客イベント開催中止等の各種対応を行った結果、利用者数は、前期比522,678人減少の390,726人、売上高は前期比2,074,714千円減少の1,798,425千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、1月の記録的な雪不足による営業期間の縮小に加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴うインバウンド客ならびにスキー団体等の大幅な減少もあり、来場者数、売上高ともに前期に比べて減少いたしました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、新型コロナウイルスの影響により、オープン時期が当初予定の4月から6月初旬にずれ込んだほか、平日を中心に開園期間の短縮も行い、また、恒例の大型音楽イベント「J O I N A L I V E」や花火大会についても開催中止となるなど、思うように集客を図ることが出来ませんでした。なお、10月の開園期間を例年より延長したこともあり、学校行事利用など近郊の学校団体の取り込みは好調に推移いたしましたものの、全体でのご利用団体数は減少し、休園期間の集客の落ち込みをカバーすることが出来ず、来園者数は落ち込みました。

また、『いわみざわ公園管理』におきましては、外出自粛ムードの中にあっても、屋外型レジャーであるキャンプ場のニーズは高まりを見せたものの、やはり営業期間短縮の影響は大きく、来場者数は伸び悩みました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前期比109,978人減少の117,943人となり、売上高は前期比258,344千円減少の507,410千円となりました。

以上の結果、利用者数は前期比632,656人減少の508,669人となり、売上高は前期比2,333,059千円減少の2,305,835千円、営業利益につきましては前期比631,408千円減少の107,574千円となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、コース整備や設備の拡充による顧客満足度向上を基本に据え、3ゴルフ場各々の特性や強みを活かした集客施策を行ってまいりました。また、最新式の空気清浄機の設置等、徹底した新型コロナウイルス感染防止体制を整えた上で、顧客ニーズに応じたスループレーブランの促進など、安全安心のプレー環境整備に注力いたしました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、海外からの入国制限に伴う韓国人プレー客の減少をカバーすべく、各季節に合わせてテーマを持たせたオープンコンペや「スタッフに挑戦コンペ」を開催して、リピーターの獲得に努めた結果、堅調な集客に繋げることができました。

施設面においては、更なる魅力増大に向けて、バンカーやレディス向けのティーイングエリアを新設し、山頂レストランにおいては、新たにウッドデッキの拡充を実施いたしました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースにおきましては、会員限定のご利用ポイント制度やカート乗り入れサービスによるメンバーの利用促進に加え、各種クラブコンペの開催により、メンバーを中心とした集客拡大を図りました。

そのほか、『大牟田ゴルフ場』におきましては、新たにさく井工事を行っており、事業用水の一部を地下水利用へ切り替えることで、中長期的な運営経費の削減を図りました。

以上の取り組みを行いましたものの、緊急事態宣言発令期間における利用減少のほか、新型コロナウイルスの影響による大型コンペの減少が見られ、また、7月の豪雨被害により、一時的に『大牟田ゴルフ場』の営業に支障が生じたこともあり、3ゴルフ場を合わせた利用者数は、前期比10,837人減少の122,093人となり、売上高は前期比128,318千円減少の866,557千円、営業損失につきましては、40,301千円（前年同期は41,864千円の利益）となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』では、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、グリーンランドリゾートオフィシャルホテルとしての万全な営業体制を維持しつつ、両ホテルにおいて、スタッフや原材料等の経営資源の集約や効率的な活用を促進し、経営基盤の安定化に努めてまいりました。

九州の『ホテルブランカ』におきましては、バルコニー付きの部屋でのバーベキューや屋上庭園「シエロガーデン」の活用など、他のホテルにはない魅力のPRに取り組みました。

九州の『ホテルヴェルデ』におきましては、ホームページの全面的なリニューアルやWi-Fi環境の整備を行い、遊園地ご利用者の宿泊特典を強くアピールするとともに、宿泊部門では、新たに「仮面ライダーゼロワンルーム」を造成したほか、料飲部門では、外出を控える地元のお客様に向けたレストランのテイクアウトメニューやデリバリーサービスに注力し、売上の拡大を図りました。

そのほか、宴会部門では、料飲イベント「秋の大収穫祭」や「純烈ディナーショー」の開催に加え、おせちの販売などを積極的に行い、更なる顧客拡大に向け、多彩な魅力発信にも努めました。

以上の取り組みの結果、秋以降のG o T oトラベルキャンペーン期間においては、特に宿泊部門において著しい回復が見られましたものの、年間を通じて最大の集客時期であるゴールデンウィークの遊園地休園ならびに夏季のプール営業の中止の影響は大きく、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前期比29,897人減少の37,592人となり、また、婚礼をはじめとする各種宴会ご利用の落ち込みも大きく、売上高は前期比686,958千円減少の686,935千円となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、どうみん割やG o T oトラベルキャンペーンを最大限に活用したプラン造成により、遊園地やスキー場ご利用を中心としたファミリー客や団体客の取り込みに注力いたしました。料飲部門につきましては、完全予約制でのビアガーデンイベントを開催したほか、G o T oイートキャンペーンを活用した様々な企画による顧客獲得に努めました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、大規模リニューアル工事を開始した7月までの営業期間は、学校や企業を対象とした団体宿泊の取り込みに注力したほか、比較的堅調な日帰り入浴客の利用促進に努めました。

以上のような取り組みを行いました。『北村温泉ホテル』のリニューアル工事に伴う休館もあり、宿泊客の獲得が思うように進まず、『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』の宿泊者数は前期比13,362人減少の11,237人となり、新型コロナウイルスの影響による料飲部門ならびに宴会部門の落ち込みも大きく、売上高は前期比377,242千円減少の262,775千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前期比43,259人減少の48,829人となり、売上高は前期比1,064,200千円減少の949,711千円、営業損失は417,342千円（前年同期は25,843千円の利益）となりました。

(不動産事業)

不動産事業における賃貸収入につきましては、グリーンランドリゾートエリアの既存テナントの一部賃料改定により収益性が向上したものの、新規テナントの獲得には至らず、売上高は前期比6,415千円増加の164,476千円となり、営業利益につきましては、前期比11,486千円減少の109,492千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、ポゾテックの販売が好調だったほか、バイオマス発電所への燃料投入業務の受託が堅調に推移したものの、客土用土の販売が減少し、売上高は前期比223,613千円減少の330,289千円となり、セグメント利益は前期比9,994千円減少の79,788千円となりました。

(注) セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記すべてのセグメント損失合計160,788千円に、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む301,144千円を加えた461,933千円が当連結会計年度の営業損失となります。

2)次期の見通し

当社グループにおきましては、引き続き、新型コロナウイルス感染状況の推移ならびにその影響を敏感に捉え、各種感染防止対策の徹底により、お客様に安全安心なサービスを提供することを最優先事項とした上で、可能な限り早急な収益基盤の回復と安定化に取り組んでまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、本年は、開園から数えて55年目を迎える節目の年となりますので、様々な取り組みを行い、このメモリアルイヤーをお客様と一緒に盛り上げてまいります。

まず、春のイベントにつきましては、3月より、漫画やTVアニメが絶大な支持を受けている「約束のネバーランド」とのコラボレーションイベントを開催いたします。

園内でのオリジナルラリーイベントや展示ブースのほか、描き下ろしのイラストやキャラクターによる園内アナウンス、アトラクションとのコラボレーション、さらにオリジナルグッズ販売やレストランのコラボフードなど、本作品の世界観をたっぷり体験できるイベントとなっております。

また、「仮面ライダーセイバー スペシャルショー」と題し、現在TV放映で活躍中の「仮面ライダーセイバー」を主演として、日本最大級の屋外ステージ「グリーンスタジアム」を舞台に、迫力満点のアクションショーを展開いたします。

そのほか、夏季のプール営業や新たなアトラクション導入につきましても、鋭意取り組んでまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春の遊園地オープンから、「仮面ライダーセイバー」、「トロピカル〜ジュ!プリキュア」、「機界戦隊ゼンカイジャー」など、男児女児それぞれに人気の高い最新キャラクターショーを開催するほか、人気ユーチューバーによるPR展開など、注目度の高いイベント実施に取り組んでまいります。

また、夏休みに向けて、新規アトラクション「ピーターパン(仮称)」の導入を行い、更なる集客拡大を図ります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、学校授業や自衛隊訓練等の団体獲得に加え、スキーやスノーボード初心者向けに、レッスンと用具レンタルをセットにしたホテル宿泊プランを造成いたします。

『いわみざわ公園管理』におきましては、引き続き指定管理者として適切な管理を行うとともに、昨年は新型コロナウイルスの影響により中止いたしました「ローズフェスタ」について、初夏と秋に2回開催することで、集客拡大に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、3ゴルフ場の立地やコースの特性等に伴うそれぞれのマーケットならびに顧客ニーズを的確に把握し、女性シニア向けのティーイングエリアの新設やカート乗り入れサービスの拡大など、より実効性のある集客施策に取り組んでまいります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』は、九州の『グリーンランド』と同じく、本年度開場55周年を迎えることとなりますので、記念コンペの開催に加えて、友の会会員限定のイベント開催ならびに特典付加による友の会加入促進とともに、顧客層の拡大を図ってまいります。

また、チームで協力してスコアを競うスクランブル方式のゴルフコンペを新たに開催することで、初心者から上級者まで幅広い集客を図ります。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、増加傾向にある若者層の利用拡大に向け、WEB予約システムのPRならびに利用プラン拡充を図ります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、各種施設利用特典の付与など、グリーンランドリゾートオフィシャルホテルとしての強みを最大限に活用して宿泊獲得に努めるとともに、加えて、ブランド力ならびに商品開発力を強化していくことで、地元にも愛されるホテルとして、料飲部門ならびに宴会部門の利用促進を図ってまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、好調なネット予約を拡大して、隣接する遊園地やプール、ゴルフ場との利用セットプランの販売促進に努めるとともに、遊園地を眺望できるバルコニー付き和室でのバーベキュープランなど、多人数での宿泊や1泊2食付プランの利用を獲得することで、客単価の増加にも注力いたします。

『ホテルヴェルデ』におきましては、「仮面ライダーセイバールーム」の造成のほか、アトラクションフリーパス付きプランなど、遊園地利用客のニーズを捉えた商品造成ならびにそのPR強化に努めてまいります。

また、各料飲店舗においては、様々な料飲イベント開催や新メニュー展開に注力し、地元顧客獲得のほか、宿泊客の利用促進により、一層の売り上げ拡大を図ります。

宴会部門におきましては、人気グループによるスペシャルディナーショーのほか、「カニ&ステーキ祭り」や「大収穫祭」など、近隣他施設と差別化した、多彩な魅力ある集客イベントを開催いたします。

『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地やスキー場を柱とするオフィシャルリゾートホテルとしての強みをPRするとともに、地域を代表するホテルとしてのブランド力を活かし、料飲部門や宴会部門の顧客獲得を図ってまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、各種施設利用特典付きセットプランならびに豪華食事付きプランの販売を強化してまいります。

また、料飲メニューにおいては、料金設定やメニュー構成に配慮し、宿泊者の喫食率向上に取り組み、レストランでは、「カニ会席」や「豪華ステーキ」などの魅力ある集客イベントを開催し、一般利用客の獲得を図ります。

『北村温泉ホテル』におきましては、3月より大規模リニューアルオープンを予定しており、源泉かけ流しの温泉の魅力を再発信するとともに、様々な宿泊プランの造成を行うなど、特に女性利用客を意識したサービス強化による顧客獲得を図ってまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、社有地の有効活用に向け、新たなテナント誘致を促進することで、更なるグリーンランドリゾートエリア全体の魅力増大を図ってまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、現在のバイオマス発電所への燃料投入業務受託に加えて、新たな受託の獲得に向けて注力いたします。

また、幅広い情報ネットワークを駆使し、ポゾテックやコールサンド等の建設資材販売のほか、土木工事受注を着実にを行うことで、収益拡大を図ってまいります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい。」というキャッチコピーを掲げ、全てのお客様のココロが、楽しさや感動で十分に満たされることをスタッフ全員の目標としております。

2021年12月期の業績予想につきましては、2021年1月に政府及び自治体から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛等の要請がある中、消費者マインドと行動の変化を含めて、現時点では適正かつ合理的な算定が困難であるため未定としております。

今後の動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,195,666千円（前連結会計年度比118,208千円減少）となりました。

流動資産は、988,431千円（前連結会計年度比263,537千円増加）となりました。これは主に、現金及び預金、その他（未収法人税等、未収消費税等）が増加したことによるものであります。

固定資産は、20,207,235千円（前連結会計年度比381,746千円減少）となりました。これは主に、建物及び構築物が減少したことによるものであります。

流動負債は、4,413,884千円（前連結会計年度比602,315千円増加）となりました。これは主に、未払法人税等及び未払金が減少したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、6,227,244千円（前連結会計年度比4,754千円増加）となりました。これは主に、長期預り金が減少したものの、長期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は、10,554,538千円（前連結会計年度比725,278千円減少）となりました。これは主に、利益剰余金が減少したことによるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ125,571千円増加し、476,314千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により使用した資金は、624,383千円（前年同期は1,109,291千円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、191,559千円となり、前年同期比130,396千円の減少となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、941,514千円（前年同期は757,711千円の支出）となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金が増加したことによるものであります。

項目	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△624,383	1,109,291	△1,733,674
投資活動によるキャッシュ・フロー	△191,559	△321,955	130,396
財務活動によるキャッシュ・フロー	941,514	△757,711	1,699,226

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

また、内部留保金の用途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。

以上を利益配分に関する基本方針としておりますが、当期に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響による業績悪化が著しく、当期の期末配当金につきましては、中間配当金（無配）に続き、無配とすることを決定いたしました。

なお、次期の配当金につきましては、2021年12月期の業績予想を未定とすることから配当予想につきましても未定とさせていただきます。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の製造・販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.38%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内2店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内6店舗、園内売店の内2店舗、園内施設のうち2施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地(北海道)	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。
いわみざわ公園（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、いわみざわ公園の運営管理業務を行っております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

<不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

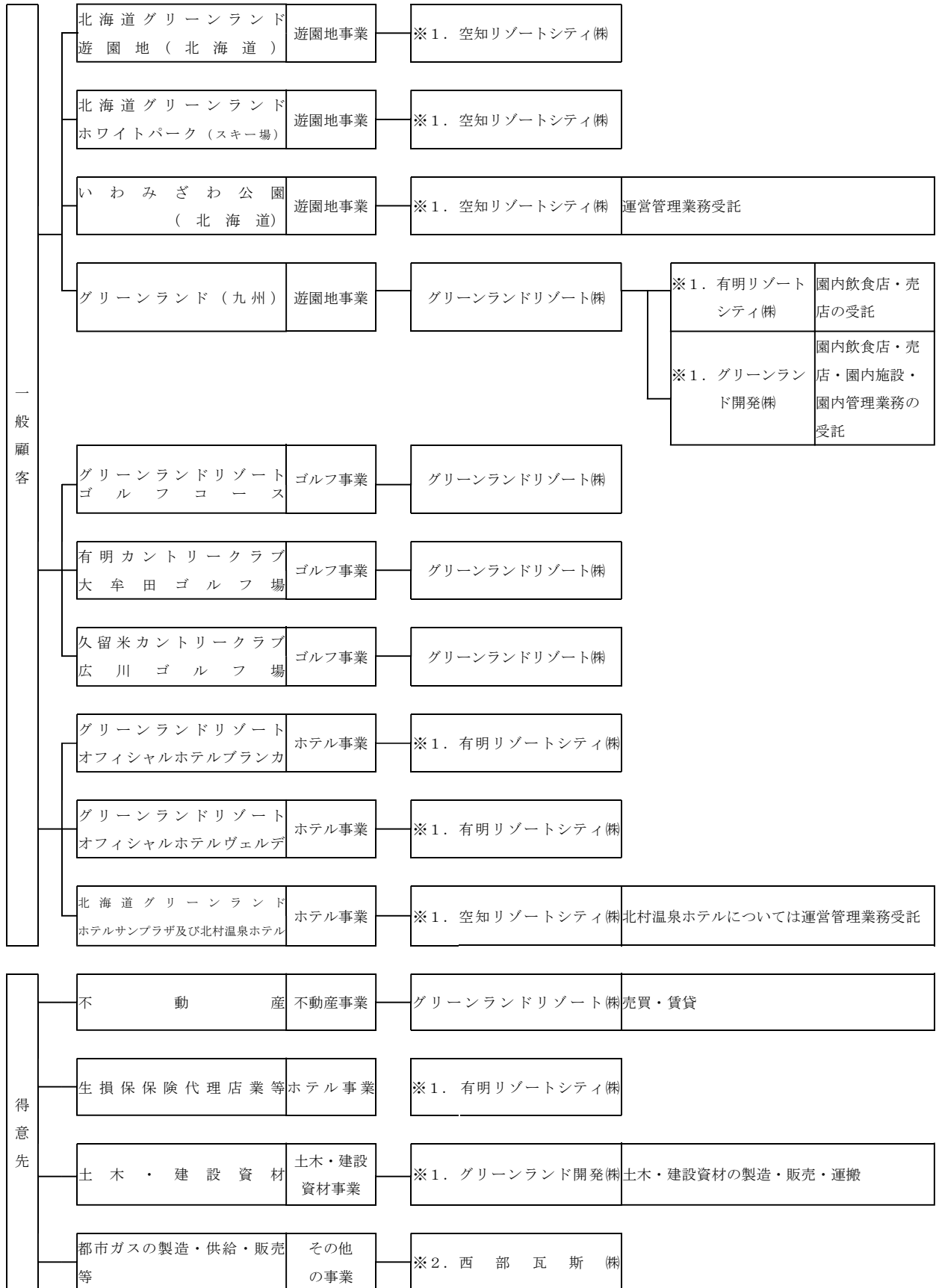
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。
----------------	----------------------------------

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

4. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	350,742	476,314
受取手形及び売掛金	207,356	223,221
商品及び製品	51,317	44,405
原材料及び貯蔵品	54,003	45,040
その他	64,924	203,194
貸倒引当金	△3,451	△3,744
流動資産合計	724,893	988,431
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,940,856	13,683,748
減価償却累計額	△10,089,890	△10,301,787
建物及び構築物 (純額)	3,850,966	3,381,961
機械装置及び運搬具	3,775,414	3,792,279
減価償却累計額	△3,197,982	△3,219,869
機械装置及び運搬具 (純額)	577,432	572,410
土地	14,929,214	14,917,042
リース資産	65,484	49,782
減価償却累計額	△37,489	△27,433
リース資産 (純額)	27,994	22,348
その他	1,252,704	1,260,383
減価償却累計額	△1,079,188	△1,121,582
その他 (純額)	173,515	138,801
有形固定資産合計	19,559,123	19,032,563
無形固定資産		
その他	244,678	213,028
無形固定資産合計	244,678	213,028
投資その他の資産		
投資有価証券	298,315	270,437
繰延税金資産	262,577	429,417
退職給付に係る資産	166,776	179,489
その他	58,610	83,399
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	785,179	961,643
固定資産合計	20,588,981	20,207,235
資産合計	21,313,875	21,195,666

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	86,526	62,879
営業未払金	127,494	92,200
短期借入金	2,891,190	3,898,696
未払金	397,694	246,535
未払法人税等	163,263	900
その他	145,400	112,672
流動負債合計	3,811,568	4,413,884
固定負債		
長期借入金	3,449,694	3,569,063
長期預り金	2,626,402	2,516,422
リース債務	403	-
退職給付に係る負債	9,086	10,803
その他	136,903	130,954
固定負債合計	6,222,489	6,227,244
負債合計	10,034,058	10,641,128
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	2,283,838	1,577,938
自己株式	△3,036	△3,036
株主資本合計	11,228,737	10,522,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,079	31,700
その他の包括利益累計額合計	51,079	31,700
純資産合計	11,279,817	10,554,538
負債純資産合計	21,313,875	21,195,666

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高	8,359,645	4,616,869
売上原価	7,084,733	4,540,861
売上総利益	1,274,911	76,007
販売費及び一般管理費	590,453	537,941
営業利益又は営業損失(△)	684,457	△461,933
営業外収益		
受取利息	13	2
受取配当金	9,638	8,480
受取賃貸料	4,561	4,921
受取保険金	28,718	25,360
助成金収入	-	106,471
雑収入	7,213	14,386
営業外収益合計	50,145	159,622
営業外費用		
支払利息	41,882	43,082
雑損失	1,163	2,755
営業外費用合計	43,046	45,838
経常利益又は経常損失(△)	691,557	△348,149
特別利益		
固定資産売却益	6,823	3,206
受取保険金	-	10,839
助成金収入	-	29,219
その他	5,271	2,723
特別利益合計	12,094	45,989
特別損失		
固定資産除売却損	21,023	32,654
減損損失	74,272	※1 284,257
投資有価証券売却損	-	5
臨時休業による損失	-	※2 134,981
災害による損失	-	31,031
特別損失合計	95,295	482,928
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	608,356	△785,089
法人税、住民税及び事業税	216,804	11,858
法人税等調整額	4,579	△163,410
法人税等合計	221,384	△151,551
当期純利益又は当期純損失(△)	386,972	△633,537
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	386,972	△633,537

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	386,972	△633,537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,290	△19,378
その他の包括利益合計	17,290	△19,378
包括利益	404,262	△652,916
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	404,262	△652,916
非支配株主に係る包括利益	-	-

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自2019年1月1日 至2019年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	2,041,590	△3,033	10,986,492
当期変動額					
剰余金の配当			△144,723		△144,723
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			386,972		386,972
自己株式の取得				△3	△3
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	242,248	△3	242,245
当期末残高	4,180,101	4,767,834	2,283,838	△3,036	11,228,737

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	33,788	33,788	11,020,281
当期変動額			
剰余金の配当			△144,723
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			386,972
自己株式の取得			△3
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	17,290	17,290	17,290
当期変動額合計	17,290	17,290	259,535
当期末残高	51,079	51,079	11,279,817

当連結会計年度（自2020年1月1日 至2020年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	2,283,838	△3,036	11,228,737
当期変動額					
剰余金の配当			△72,361		△72,361
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△633,537		△633,537
自己株式の取得					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	△705,899	-	△705,899
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,577,938	△3,036	10,522,837

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	51,079	51,079	11,279,817
当期変動額			
剰余金の配当			△72,361
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△633,537
自己株式の取得			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△19,378	△19,378	△19,378
当期変動額合計	△19,378	△19,378	△725,278
当期末残高	31,700	31,700	10,554,538

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	608,356	△785,089
減価償却費	469,438	469,143
減損損失	74,272	284,257
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△17,428	△12,713
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,132	1,717
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△629	293
受取利息及び受取配当金	△9,652	△8,482
支払利息	41,882	43,082
受取保険金	△28,718	△36,199
助成金収入	-	△135,690
投資有価証券売却損益(△は益)	△5,271	△176
固定資産売却益	△6,823	△3,206
固定資産除却損	21,023	32,654
売上債権の増減額(△は増加)	75,398	△29,922
たな卸資産の増減額(△は増加)	16,539	15,875
未収消費税等の増減額(△は増加)	-	△53,163
仕入債務の増減額(△は減少)	8,809	△58,940
未払金の増減額(△は減少)	7,736	△96,714
未払消費税等の増減額(△は減少)	16,683	△85,837
その他	15,324	△60,992
小計	1,288,075	△520,105
利息及び配当金の受取額	9,652	8,482
利息の支払額	△42,008	△42,879
保険金の受取額	28,718	36,199
助成金の受取額	-	135,690
法人税等の支払額	△175,146	△241,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,109,291	△624,383
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△326,381	△186,342
有形固定資産の売却による収入	11,631	4,524
無形固定資産の取得による支出	△9,014	△10,954
投資有価証券の売却による収入	8,097	378
その他	△6,289	833
投資活動によるキャッシュ・フロー	△321,955	△191,559
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△128,000	835,000
長期借入れによる収入	950,000	1,680,000
長期借入金の返済による支出	△1,327,677	△1,388,125
長期預り金の受入による収入	6,600	2,600
長期預り金の返還による支出	△106,040	△112,580
リース債務の返済による支出	△7,789	△2,543
自己株式の取得による支出	△3	-
配当金の支払額	△144,801	△72,837
財務活動によるキャッシュ・フロー	△757,711	941,514
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	29,624	125,571
現金及び現金同等物の期首残高	321,118	350,742
現金及び現金同等物の期末残高	350,742	476,314

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「流動負債」の「リース債務」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「リース債務」に表示していた2,543千円は、「その他」として組み替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「特別利益」の「投資有価証券売却益」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「投資有価証券売却益」に表示していた5,271千円は、「その他」として組み替えております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響については、直近では2021年1月に政府及び自治体から発令された緊急事態宣言等で厳しい状況が続いております。また、今後の広がり方や収束時期を見通すことは困難であります。翌連結会計年度中には概ね回復していくと仮定して繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

(連結損益計算書関係)

※1 減損損失

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、北海道のホテル事業における一部の固定資産について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

※2 臨時休業による損失

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、政府及び各自治体から2020年2月以降に出されたイベント開催の中止、延期、規模縮小や外出自粛の要請及び緊急事態宣言等を受け、九州の遊園地をはじめとする当社グループの一部事業所で、ゴールデンウィークを含む期間におきまして臨時休業や営業時間の短縮を実施いたしました。このため、臨時休業期間中の遊園地事業及びホテル事業において発生した固定費（人件費・減価償却費など）及び遊園地事業において発生したイベント中止に係る費用を臨時休業による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの損益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,638,894	994,876	2,013,911	158,061	553,902	8,359,645	—	8,359,645
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,658	11,800	23,146	27,741	35,091	106,438	△106,438	—
計	4,647,552	1,006,676	2,037,058	185,802	588,993	8,466,083	△106,438	8,359,645
セグメント利益	738,983	41,864	25,843	120,978	89,783	1,017,452	△332,995	684,457

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△327,739千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,305,835	866,557	949,711	164,476	330,289	4,616,869	—	4,616,869
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,881	11,265	20,714	11,491	39,169	86,523	△86,523	—
計	2,309,717	877,823	970,426	175,967	369,458	4,703,392	△86,523	4,616,869
セグメント利益又は損 失(△)	107,574	△40,301	△417,342	109,492	79,788	△160,788	△301,144	△461,933

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△296,240千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり純資産	1,091.16円	1,021.00円
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	37.43円	△61.29円

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。なお、当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	386,972	△633,537
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	386,972	△633,537
期中平均株式数 (千株)	10,337	10,337

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

役員の異動

1. 代表者の異動

該当事項はありません。

2. その他の役員の異動

(1) 新任取締役候補

取締役 佐伯 賢二 (現 当社経営管理室長)

取締役 山下 秋史 (現 西部瓦斯株式会社 常務執行役員関連事業部長)

※山下秋史氏は、社外取締役候補であります。

(2) 退任予定取締役

取締役 米倉 和久 (現 西部ガス・カスタマーサービス株式会社 代表取締役社長)

3. 就退任予定日

2021年3月30日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

佐伯 賢二 (サエキ ケンジ) 1968年8月15日生 52歳

1991年 4月 当社入社

2014年 4月 当社経理部次長

2014年 9月 当社経理部次長兼社長室長

2017年 3月 当社総務部長兼社長室長

2018年 6月 有明リゾートシティ株式会社出向 (同社取締役ブランカ総支配人)

2019年 3月 当社経営管理室長 (現任)

山下 秋史 (ヤマシタ アキフミ) 1960年10月7日生 60歳

1984年 4月 西部瓦斯株式会社入社

2010年 7月 同社総合企画室経営推進室長

2011年 4月 同社エネルギー統轄本部長崎支社営業部長

2014年 9月 同社総合企画室経営企画室部長

2015年 4月 同社理事電力事業企画部販売企画室長

2016年 4月 同社理事総合企画室経営企画室部長

2017年 4月 同社理事総合企画室経営企画室長

2018年 4月 同社執行役員経営企画部長

2020年 4月 同社常務執行役員関連事業部長 (現任)

グリーンランドリゾート株式会社 新体制 (2021年3月30日付)

代表取締役社長	江里口俊文《再任》	
取締役副社長	松野 隆徳《再任》	(有明リゾートシティ株式会社 代表取締役社長)
常務取締役	重光 敬明《再任》	(空知リゾートシティ株式会社 代表取締役社長)
取締役	幕 幸《再任》	(有明リゾートシティ株式会社 特別顧問)
取締役	田中 宏昌《再任》	(不動産事業部長) (グリーンランド開発株式会社 代表取締役社長)
取締役	寺田 尚文《再任》	(遊園地事業部長兼営業部長)
取締役	佐伯 賢二《新任》	(経営管理室長)
社外取締役	山下 秋史《新任》	(西部瓦斯株式会社 常務執行役員関連事業部長)
社外取締役	上野 豊徳《再任》	(肥銀リース株式会社 会長)
常勤監査役	岡部 雅彦《現任》	
社外監査役	中尾 哲郎《現任》	弁護士法人中尾総合法律事務所所長
社外監査役	水本 忠敬《現任》	水本税理士事務所所長
社外監査役	藤田 直己《現任》	公認会計士藤田直己事務所所長